

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

【資料2-2】

機関名：鹿児島県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>開発現場等からの赤土流出防止対策（関係各課）</p> <p>赤土等流出防止対策について、「奄美地域赤土等流出防止対策協議会」等を年1回開催し、関係市町村や団体等とともに連携を取りながら対策を進めている。</p> <p>なお、平成29年度より啓発活動の一環として、事業者団体や個人を対象に優良事例表彰が新設された。</p>	<p>(1) 奄美地域赤土等流出防止対策協議会の開催 奄美地域の関係機関（国、県、市町村、関係団体）が一体となって赤土等流出防止について協議し、必要な対策を積極的に推進するため、奄美地域赤土等流出防止対策協議会を開催し、運営した。</p> <p>(2) 広報啓発 ①赤土等流出防止対策の文書依頼 ②地元新聞社への広告掲載 ③啓発グッズの作成 ④ラジオCMによる啓発 ⑤普及だよりによる管内市町村への赤土等流出防止対策推進啓発 ⑥梅雨時期の広報依頼</p> <p>(3) 優良事例表彰 協議会構成団体合同による管内の優良事例地区を視察及び検討会を実施した。 その結果、関係団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた。</p>
2	<p>汚水処理人口普及率の向上（都市計画課）</p> <p>鹿児島県では、事業主体である市町村と連携しながら、地域の実情に応じた効率的かつ適正な生活排水処理施設の整備を進めている。</p>	<p>鹿児島県は、地理的な条件として人口散在地域が多いことなどから、生活排水処理施設の整備状況は地域差が大きいが、地域の特性を踏まえ、下水道、農業・漁業集落排水施設、浄化槽など生活排水処理施設の整備を効率的・計画的に進めている。なお、奄美市、和泊町、知名町においては、全国の汚水処理人口普及率を大きく上回っている。</p>
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p>喜界島まるごとサンゴ礁ミュージアム事業（喜界島サンゴ礁科学研究所）</p>	<p>サイエンスキャンプの実施 喜界島のサンゴ研究に取り組む研究者を講師として、地域住民向けの講演会およびそれに関連したフィールドツアーを実施した。 (H30：42名参加、R01：54名参加)</p> <p>【実施主体】 喜界島サンゴ礁科学研究所および地域住民</p>
2	<p>サンゴ増殖活動・環境整備（関係課）</p> <p>サンゴ着床具などを使用したサンゴ増殖を進め、自然の状態でサンゴの再生が期待でき、かつ観光資源などとして重要な海域において、サンゴの着生・生育に適した環境整備を行う。</p>	<p>サンゴ増殖活動 平成17年度からの継続事業であり、R01年度も、奄美市、瀬戸内町の海域において実施。 【実施主体】 鹿児島県</p>
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p>サンゴ礁保全対策事業（自然保護課、奄美群島内12市町村）</p> <p>サンゴ礁の現況を把握するモニタリング、県民に対するサンゴ礁保全活動の普及啓発、サンゴ食害生物除去などの対策を実施する団体を支援する。（奄美群島成長戦略推進交付金事業）</p>	<p>奄美群島では、全市町村で構成する「奄美群島サンゴ礁保全対策協議会」を設立し、平成16年度から対象海域を奄美群島全域に拡大し、重点海域においてオニヒトデの駆除を行うとともに、平成17年度からはサンゴの生育状況等のモニタリング調査を継続している。</p> <p>(活動内容) モニタリング調査、モニタリング講習会、オニヒトデ駆除、ホームページの管理運営、シンポジウムの開催など</p>
2	<p>水産多面的機能発揮対策事業（水産振興課）</p> <p>漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援する。</p>	<p>枕崎市や指宿市などにおいて、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、多様な生物の生息・生活の場となっているサンゴ礁を保全するため、オニヒトデの駆除を行い、藻場の保全を行っている。</p>
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		